

かんぺき
完璧

(中国の古い話)

昔、中国の趙という国に、「和氏の璧」という、たいへん美しい宝石がありました。強い国、秦の王は、この宝石をほしがり、「十五の町と取りかえよう。」と言ってきました。けれども、秦の王は、宝石だけ受け取って、町をわたさないかもしれせん。趙の王はこまりました。

そのとき、藺相如という家来が進み出て言いました。「わたくしが宝石を持って行きましょう。もし、町がわたされなければ、宝石をきず一つつけずに、持って帰ってまいります。」

秦の国に着くと、案の定、秦の王は、宝石を手にとって喜ぶばかりで、町をわたす話をしません。藺相如は、「その宝石には、小さなきずがあります。お見せしましょう。」と言って、宝石を取りもしました。そして、柱のそばに立って言いました。「約束を守らないなら、この宝石を、わたしの頭とともに、柱にぶつけてくださいます。」

秦の王は、あわててあやまりました。藺相如は、そのすきに、宝石をこっそり趙の国へ送り返しました。

この話から、少しも欠けたところがないことを「完璧」というようになりました。「璧」は、この宝石のような玉のことです。

1

秦の王は、宝石を何と取りかえようと言いましたか。



の町

2

趙の王が、こまったのはどうしてですか。

3

藺相如が、「小さなきずがある」と言ったのは、どうしてですか。

4

藺相如は、どんな人物だと言えますか。

ア かしく、勇気がある。

イ おくびようで、すぐにげる。

ウ よくばりで、宝石をほしがる。

5

少しも欠けたところがないことを、何といいますか。



「